

高麗郡1300年大学が開講

高句麗人渡來を紹介

武藏国に高麗郡が設けられてから来年で1300年を迎えるのを記念して、日高市などは市民講座「高麗郡1300年大学」を立ち上げ、同市女影の埼玉女子短期大学で第1回の講演会を開催。日高市内にある高麗神社の高麗文康

宮司が「高麗郡建郡1300年とは」と題して60人の聴講者に話をした。

高麗宮司は奈良時代の716年に、東国7力國から1766年に使節団の一員として渡来した若光が大和朝廷に仕え、高麗郡のリーダー役として武藏国に派遣されてきたことなどを説明した。

講座は高麗郡について多くの人に学んでもらおうと、本年度から2年間に計10回開く予定。

(広川二六)



講演する高麗文康宮司

99人の「高麗人(こまひと)」が集まって置かれた高麗郡について、中国東北部や朝鮮半島北部を支配した高句麗の滅亡にちなむことを紹介した。

日本書記には高句麗滅亡の記述が詳細で、国を失った多くの高句麗の人々が海を渡り、日本に移り住んだこと

666年に使節団の一員として渡来した若光が大和朝廷に

仕え、高麗郡のリーダー役として武藏国に派遣されてきたことなどを説明した。

講座は高麗郡について多くの人に学んでもらおうと、本

年度から2年間に計10回開く予定。